

## 牧之原市菊川市学校組合教育委員会臨時会 会議録

令和7年7月18日、牧之原市菊川市学校組合教育委員会臨時会が牧之原市役所相良庁舎に招集された。

この委員会に付議するため、委員長の告示した議案は次のとおりである。

### 付議議案

協議第1号 牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校・牧之原中学校における小中一貫教育のあり方に関する意見書について

### 出席委員

1番 橋本 勝	事務局	教育文化部長	竹内英人
2番 近江賢市		学校教育課長	小倉圭司
3番 八木香代子		学校教育課教育コーディネーター	
4番 永田康彦			大石友巳
5番 山本和波		学校再編推進室長	小塚康道
		学校再編推進室主幹	石川奈美
		社会教育課長兼	
		大河活用推進室長	本杉裕之
		スポーツ推進課長	佐々木悟
		教育総務課課長	永野智芳
		教育総務課主幹	飯田隆太
	牧之原小中学校	学校運営協議会	
		会長	樽林初男
		コミュニティスクールディレクター (CSD)	立花優子

開会時刻 午前9時30分 牧之原市役所相良庁舎3階庁議室

### 教育長挨拶

昨年11月、学校運営協議会に対し「牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校・牧之原中学校における施設隣接の利点を最大限生かした小中一貫教育を充実するための提案」を依頼した。本日「牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校・牧之原中学校における小中一貫教育のあり方に関する意見書」を受領する運びとなった。この意見書をもとに、学組教育委員会として方針（或いは計画）を策定していくこととなる。委員の皆様には引き続き御協力をお願いする。

会議録署名人の決定（事務局より指名）

橋本教育長と永田委員を指名

協議第1号 牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校・牧之原中学校における  
小中一貫教育のあり方に関する意見書について

(学校運営協議会より教育長へ意見書を提出)

(学校運営協議会より説明)

(学校運営協議会等への質疑)

八木委員 方針について、将来的に義務教育学校にするということに関して、年度の目途はあるか。

学校運営協議会会長 何年という目途はない。一貫校となりある程度整ってくれば、その次に義務教育学校へ移行したらどうかという提案。

八木委員 帰郷家教育とは何か。

学校教育課長 牧之原小中学校に限らず、市内の小中学校で行っているキャリア教育のことを帰郷家教育と呼んでいる。人間にとって身に着けてほしい資質や能力として、自己理解力、他社理解力、コミュニケーション力などを、総合的学習などの時間を利用して高めていこうというもの。

教育文化部長 帰郷家教育はこういうものというのが決まっているわけではなく、本市が取り組んでいるキャリア教育のプログラムを総称して、牧之原市では帰郷家教育と呼んでいる。

八木委員 部活動の外部移行について、牧之原中学校は部活動の数が少ないが、市立の中学校との連携は考えているか。

学校教育課教育コーディネーター

現在、野球は合同部活動として活動しており、ほかの種目についても合同にしているケースがある。剣道も一人しかいない状況なので、榛原中と合同練習を行っている。

牧之原中学校の校長に伺ったところ、一貫校になれば小学生も入れていきたいと考えているが、今は入れられるのはバレ一部と吹奏楽部程度しかなく、ほかは難しい状況とのことだった。

八木委員 CSDの業務時間数の不足について、現在週に何時間勤務されており、必要な時間数は何時間か知りたい。

学校運営協議会 CSD 年間で675時間と決まっており、これはほかの学校の1.5倍分もらっている。一週間に何時間という決まりはないが、今のところ基本は週3日で、小学校に1日、中学校に2日勤務している。校舎が近いので中学校に勤務する日でも、小学校に行ったりしている。元々2校分の時間をもらっているわけではないので、その分足りなくなっているというはある。

牧之原小中学校は、同じ委員が2校分の行事に出ないといけないという負担がある。2校分の時間をいただければ、ほかの学校と同じになるが、他の学校CSDからも時間が足りなくて仕事を家に持ち帰っていると聞いている。どの学校のCSDも、少ない時間数で頑張っていると思う。

八木委員  
教育総務課長

菊川市のコミュニティバスの利用の状況はどうか。

決まった人数ではないが、登下校とも、毎日確実に何人かは乗客がいると聞いている。乗車定員の問題もあって全員乗れるかというところがあるので、菊川市と協議をして使える方向で相談を重ねていきたいと思っている。

近江委員

部活動の件で、小学校高学年が参加できるようにというのは、小学校の先生にも手伝いをというニュアンスを含むか。

学校再編推進室主幹

これは検討部会からいただいた意見になるが、部員の人数が少ないから増えるといい、小学生も体験できるといいという意見だった。特に先生についての意見はなかった。

近江委員

小学校の先生は時間数多いので、そこまで入るのは大変だと思う。書き方として、学校の詳しい事情や内情をあまり知らない人が読んでも分かるような表現に気を付けていかないと、誤解が生じる恐れがあると感じた。

CSの関係でお願いだが、学校運営協議会に菊川市民も参加していかないと、参画意識や当事者だという感覚を持たない。委員の構成として、菊川市からも、学校運営協議会の方に参画できる形で進めていただけるとありがたい。

学校運営協議会会長

2市で運営しているので、学校の方にも伝え、努めていきたい。できれば学校運営協議会の人数も少し増やしていただくよう検討をお願いしたい。

－学校運営協議会2名退室－

(教育委員等による協議)

教育総務課長

今後、意見書を基にした内容で方針を決定していきたいと考えている。委員会でもいただいた意見を事務局で整理したものを委員に見ていただき、それについてまた協議いただくという流れで決定していきたいと考えている。今後、2回程臨時会を開かせていただき、最終的に決定していきたい。スケジュールがタイトになるが、9月中には決定したい。次年度の予算や、議会への報告、区民への報告・周知もあるので、それくらいの時期を目標にしたいと考えている。

まず、意見書の方針についてはいかがか。

学校再編推進室主幹 補足として、最初から義務教育学校とするには、閉校して新しくするというので、校名や校歌などの問題もあり、そこに時間をかけるよりは、子どもたちの学びや育ち、9年間をどうしていくかというところをしっかりとやって入っていきたいということで、まずは小中一貫校から始めたらどうかという思いがある。検討部会の皆さんが早く開校したいという中で、これが合致してこういう書き方になっている。義務教育学校を目指してまずは小中一貫校から始めていくということと、10年度の開校ということについてご意見をいただきたい。

山本委員 せめて校舎は繋げたいと思った。令和10年度までに義務教育学校にするというのは厳しいという思いがある。そこまでは、自分も含め思っていなかった。

教育文化部長 地域からは8年度にという声もあった。今から計画を立てて設計するため、少なくとも2年はかかる。目標の置き方として10年度とした。意見書を踏まえたあり方の方向性を、本委員会で決定していく流れになるが、計画期間を書き込む際に、10年度までになのか、長いスパンの中でここまでにはという書き方をするのかというところをお話いただければ。それを事務局でまとめて案を提示させていただき、見ていただく作業を何度か行って、9月までには形にしたい。

山本委員 10年度までならそのまま実現できるのか。

教育文化部長 施設を繋げて、それをもって開校ということであれば何とか。

学校再編推進室主幹 目標を10年度と置くのであれば、今年度中に工法や費用、期間を比較する作業を行わないと間に合わない。そのためにも9月までに方針を策定できれば、それが間に合う。8年度に設計、9年度に工事をすれば、建物的にはうまく進めば間に合う。先生たちの対応の面でも、純粹に2年は必要だろうということで、10年度を見込んでいる。開校ということであれば、市の学校再編計画も目指すという書き方をしているので、目指すということは書ける。

山本委員 それより早くは無理なのであれば、遅くともは抜いて、目指すという形の方がいいのでは。

学校再編推進室主幹 委員の皆さんが10年度ということであれば、10年度を目指すという書き方に変えていきたい。建物のことだけを言えば今も使っているので、使っている状態で工事をするのも、開校してから工事するのも同じだが、気持ち的にどうか。

山本委員 保護者目線では、繋がったからというものもあるので、先に繋げたいなというのがある。

教育文化部長 何をもって開校かというものが必要。教育の内容が必要なので、一貫教育が始まっても、一貫校として何をもって開校かというのは、そういうイメージかと思う。

八木委員 施設の具体的な要望が書かれているが、こちらの要望がすべて満たされる施設ができればいいなと思うが、実際どうか。全部を満たすのはかなり大掛かりな工事になる。

学校再編推進室主幹 工事が必要なのは渡り廊下と職員室。共用利用については、今の教室をどう使うかというのは運用の面で対応できると考えている。地域の人が入れるスペースをどこにするかも、今の放課後児童クラブも上に上がれないようにできているので、そういうところに置くこともできるかと思う。

教育文化部長 職員室は、今のそのままの状態のものを一箇所にとめるのは難しいが、フリーアドレスにして什器などを整備することでできる部分もある。渡り廊下の整備も、やれることはステップを踏んでやっていくが、大掛かりな工事は決めてかかってやっていかないといけない。今後、計画や方針として整理していく。こちらからこれでどうかというものを示させていただきます。

八木委員 4-3-2の教室配置もどうなるのか気になる。最終的にそこを目指すなら、それも含めた工事ができると良いのかなと思う。

学校再編推進室主幹 例えば4年生までが小学校、3-2が中学校の校舎に入ると良いのではということか。

八木委員 それもいいかもしれない。

教育文化部長 渡り廊下以外にあまり大きな予算は難しいという現実感を持っている。その中でどれだけできるかというところを考えながら案を出させていただく。

学校教育課長 何をやるにも学校の意見を大事にしながら進める。

近江委員 中学校の2階部分には各学年の部屋と多目的教室と生徒会室があるが、それが普通教室になりそうなのか。多目的ホールなどがなくなってしまうと窮屈。色々制限がある。

学校再編推進室主幹 中学生が小学校の教室を使えるようにはなるので、既存の教室をどう使うかはこれから考える。

永田委員 先日あいさつ運動に行ったが、学校の前の道が危険。車で送迎する人もいるので、入口も一つになるなら、中学校側を送

迎専用にするなど、動線を分離したらどうか。橋の方から勢いよく車が出てくるので、通学路を安全にするということも併せてお願いしたい。

学校再編推進室主幹 10年度に小中一貫校から始めていくということについて意見はあるか。

(全委員意見なし)

教育総務課長 意見書の具体策の方で、1番の内容についてはどうか。

近江委員 4-3-2は良いと思うが、義務教育学校や小中一貫校を全然知らない人が見た時に、4-3-2にすると、小学校というものがなくなってしまって、4年生までと、3年間の中学年とそれから2年間という、小中がなくなってしまうというイメージを持たれる人がいる。事実、そういう人と話したことがある。そこはもっと安心感が出るように、各学年の指導内容は変わらないけれども、組み合わせを変えるという、指導上の区切りという説明をしたい。4-3-2を重く受け止める方もいるので、不安に思われないように丁寧に説明したい。

教育文化部長 小学校6年、中学校3年という括りは変わらないが、運用上教育の段階を、4-3-2の区切りでカリキュラムを組んで進めていくということだが、ご指摘のとおり分かりづらいところではある。そこは丁寧にやっていく。

教育総務課長 ほかの委員は意見はどうか。

(八木委員、山本委員、永田委員意見なし)

教育総務課長 具体策の2番はどうか。

近江委員 表記について、「牧ノ原台地」は「牧之原台地」ではないか。

学校再編推進室主幹 台地と表記をする時は、教科書では「牧ノ原台地」であった。改めて正式な表記を確認する。

近江委員 方針は、教師向けでなく一般の人向けのものになるので、専門用語は避けた方がいい。「リアルとオンラインのハイブリッド」などは、一般の人には分からない。「個別最適な学びのツール」が何を指すのかもはっきりしない。専門用語をできるだけ取り除きながら作成いただきたい。また、文が長く途中で主語が変わっていたりするので、分かりやすくまとまると良い。

学校再編推進室主幹 CSのところ、近江委員からの意見で、今菊川市の人が入っていないので、委員構成の地域バランスを方針に盛り込んだ方がいいと思ったがどうか。

近江委員 数を決めると窮屈になってしまうと思うが

- 橋本教育長 数まで入れなくても、バランスを取るというものは入れたらどうか。
- 学校再編推進室主幹 協議会の人数の話もあったが、いわゆる会議体であり、その人が全部の行事に出ないといけないというわけではないので、そこを学び直していただく必要もあると思っている。人数を増やすという点についてはどうか。
- 橋本教育長 一貫校として一つの学校になるという中で、委員の人数を増やしていくというのも難しいと思っている。今は小学校と中学校が別々であって1つの組織体でやっているの、CSDの仕事も多いが、小中一貫校として一つの学校として考えて意見を出していくということになれば、倍にするということはないのかなと思うがどうか。
- 永田委員 新しい学校を運営していくには、多くの人目を反映した方が良くと思う。今少ないという意見があるのであれば、補充した方がいいと思う。
- 教育文化部長 学校運営協議会は、学校に対して意見する役割を持っている。小中一貫校になれば、一つの学校に対して意見を言うという形になるので、人数が多ければいいというのも少し違うのかと思っている。小学校の子どもがそのまま中学校に上がり、父兄や地域の人が変わらない中で、人数だけ増やすと、その人員をお願いしないといけないが、なかなか手の挙げ手がないという事情もある。運営していくために必要な人数としてお願いしているという現実もあり、それだけお願いする人が増えるのも、逆に困ることがあると思っている。
- 橋本教育長 PTAも、小学校が終わったら中学校もまたという話がある。小学校と中学校が一つになるので、そこはスリム化できる。同じようにその整理は必要と思う。ただスタートの時点ではやることも多いのでということはあると思う。拡大していくという方向ではなくて、スリム化して動きやすくすることもやっていかないといけない。
- 山本委員 あまりスリム化すると、保護者や地域の負担は減るが、今は行事も少なく、学校運営協議会を知らない人もいるので、あまりやり過ぎると学校のことについての認知が減ることになる。自分も保護者のほかの役員をやっているが、あまり大変ではないと思っている。多少負担になってもやらせてしまった方がいい。その方が地域でも話にも出やすい。ある程度は強制力があって、例えば菊川は絶対2人出してくださいと

- というのはありだと思っている。やりたくない人の声を聞いてしまうと、全部ができなくなって、やっている人が損をすると感じる部分がある。子どものためなら引き受けてくれる人も意外というと思う。授業参観も、牧之原小中学校はかなり保護者が来てくれている。
- 学校再編推進室主幹 今の意見では、全体で10人なら10人で変えずに、地域で何人と決めたらどうかということか？
- 山本委員 そのとおり。ただしやってくれている人が少ないと思っているなら、そういう意見を聞いて人数を考えたらどうかと思う。
- 学校再編推進室主幹 学校運営協議会とは別に地域学校協働本部という組織がある。地域学校協働本部は、どちらかというボランティア組織で、学校運営協議会と繋がって実行してくれる部隊。ここが一緒になっているから学校運営協議会の人たちが全部やらなければいけないという形で、人が足りないと言っているような気もしている。地域学校協働本部を組織化して、人を置いていけば負担が減っていくので、本来のCSの形をしっかりとやっていく方が、学校運営協議会の人数を増やすよりも効果的という考えもある。モデル的に牧之原小中学校でやっていくのもいいのではと思っている。どこの学校の運営協議会も時間数が足りないということであれば、1校当たりの元の時間数を見直すということをするのがいいかと思う。全体的にCSDの時間数が足りていないという話もあるので、そこを絡めて時間数の話を方針に出させていただく形でいいか。学校運営協議会の人数については、地域学校協働本部を充実させていくという方向でやっていくという展開でもいいか。
- 山本委員 良いと思う。そうすれば学校運営協議会から人を出さなくてよくなり、草刈りなどの作業も減って、CSDの負担も減ると思う。
- 近江委員 実態が掴めているわけではない。CSDが週何時間もらっているかも知らない。
- 学校再編推進室主幹 どこのCSDも時間数が足りないという話はあるが、それがボランティア業務まで全部出て足りないという話なのかは、実態は掴めていない。そこは併せてやっていく必要がある。
- 橋本教育長 もう一度、市内全体で動きやすさや組織のところは整理して、こうすれば活動しやすい、負担が増えないということを考慮して見直す時期に来ている。牧之原を先にとっかかれるようにやれば、市内にまた下ろすこともできる。

山本委員 部活動について、小学校高学年が参加するという部分で、バレーと吹奏楽しか現実的でないという中で、この記載はいろいろなのではと思った。希望者がいれば対応できるようにしていくなど。この書き方では、小学生も最終的にみんな参加するというように感じる。

学校再編推進室主幹 書き方として、希望があれば部活動によっては参加できるような体制を整えます、という意味合いでいいか。

近江委員 下校時間は小学生と中学生で違う。同じ時間帯に下校するのは怖い。吹奏楽は早く帰れるなどはあるのか。

学校教育課教育コーディネーター 全体的に部活の時間を短くしていく方向にはあるが、学校側もその点は心配していたので、そういったことを課題にしながら、希望があれば受け入れるけども、どのように受け入れるかは今後検討が必要になると思う。そのことをここに書き込むかどうかは何とも言えない。受け入れることができるとしておいて、学校側に判断を委ねていくというのが必要かと思う。

近江委員 色々な捉え方をする人がいるので難しい。

学校再編推進室主幹 希望があれば対応できるよう体制を整えます、ただし実施に当たっては下校時間も加味して学校が判断しますという形でいいか。

(全委員意見なし)

山本委員 「幼保小の架け橋プログラム」は、以前園長先生から話があったと思ったが、現時点でもまだ作成途中なのか。

学校教育課長 現在作成中であり、今年度見るものとしては表現に違和感はない。

教育総務課長 大きい3番4番について意見はあるか。

(全委員意見なし)

学校再編推進室主幹 全体の書きぶりとして、今後方針または計画を出していくときには、こういう方向に進めます、検討しますという表現になる。目的や計画期間、推進体制やスケジュールなどを入れた状態で案としてお示ししてご意見をいただくという形をお願いしたい。

教育総務課長 本日意見交換をしていただいたので、出た意見を踏まえた中で、案を考えさせていただいて、またご提示させていただく。整理できた段階で案を送らせていただくのと併せて、また臨時でお集まりいただいてということで、内容についてのキャ

ッチボールをできたらと思っているので、よろしくお願ひしたい。

学校教育課長

一つ確認させていただきたい。児童生徒に直接関わる部分で、4-3-2制の話について、表現を丁寧にといいことだが、意見書の付帯意見でも学校の意見を聞きながら進めてくださいという話があった。認識としては、学校側の意向に沿った形で、設置当初は、小中の交流を十分に加味した上での6-3制でスタートすることもあるという認識を皆さんお持ちということによろしいか。

学校再編推進室主幹

そうしたいならそう書いた方がよいと思うが。

学校教育課長

4-3-2制で行くとなると、学校は受け止めとしては重いものになってしまわないかと思う。最終4-3-2制を目指す、当初は6-3の中に4-3-2を意識した教育課程を組んでいきますという捉え方で良ければそれでいいが。

学校再編推進室主幹

4-3-2を学校が無理に始めようとして子どもたちや先生たちに負担になってしまうようなら、6-3からスタートして将来的に4-3-2に行くということも考えたいということで、そうした書き方でいいか。

教育文化部長

今は小学校にも中学校にもそれぞれ校長がいるので、6-3の考え方でいいと思うが、行く行くは一人の校長で、9年間通した中で、今の形から理想の形に向かっているという、そういうあり方になるのではないか。ある時に一気にその形になるかという、現場の戸惑いなどもあるのでそうはならないが、丁寧にやっていきますという言い方になるのでは。

橋本教育長

スタート時からというのは学校側としてもハードルが高い。最初は、6-3でスタートというと、やり方によってはそこに縛られてしまう。将来的に4-3-2を目指しながら運用していくという表現であれば、ある時期をもってそうなる。市で作る新しい学校は全く新しいので、4-3-2でスタートするというのは、教室配置なども全て含めた中でスタートする。牧之原も4-3-2でスタートするなら、校舎を繋げると同時に、教室の配置など色々なものを整理してスタートしないと、混乱ややりにくさが前面に出してしまうと思う。ハード面もソフト面も、そこまでは整理しきれない。行く行くはそういうところを目指していきたいということであれば、最初は今の校舎をそのまま使うのかなど、一人の校長がどう考えて運用していくのかは、今この場で考えてもわからない。

- 学校再編推進室主幹 とすれば、小中一貫校なので、小学校6年間、中学校3年間という区切りは変わらないが、4-3-2を意識した教育課程を組み、発達段階や教育活動に対応していくという形でどうか。
- 永田委員 10年度に開校するという目標であるが、その段階では職員室は2つあって、クラスの分け方も小学校と中学校が分かれた形で始まるのか。
- 学校再編推進室主幹 職員室は一つにできると思う。4-3-2を目指していくが、学校側がいきなり行きにくいということであれば、教室は6-3の配置のまま進めることになるかもしれない。今の時点ではわからない。学校と話し合っていく中で一番いいのはここと決めていく。
- 学校教育課教育コーディネーター  
近江委員が言われたような、一般の人も教員も含めて、4-3-2に縛られる感じが非常に強い。ただ、学校側も含めて、高学年の一部教科制などは積極的にやると考えている。4-3-2をやることは意識しているが、4-3-2となると今までと違う学校という意識になるので、どちらかというところと6-3というところの学年の括りは変わらないけれども、運用上4-3-2の括りを増やしていくという、そういう形でいかないと学校も混乱してしまう。一つの学校に近づけていくというイメージはよくわかるが、全部が全部4-3-2じゃないかもしれないということも含めながら、その辺は自由度を持たせていかないかという感じがする。
- 橋本教育長 視察に行ったところの書き方を研究したらどうか。委員が行ったところもある。
- 学校再編推進室主幹 書き方は確認をして書くようにする。足かせになってしまうようなら、そういう表現は避けたい。
- 山本委員 市立の小中学校に先駆けてやるということで、義務教育学校が4-3-2でやることが決定している中で、牧之原もそれで行くんだと思っていた。だが、今のような話であれば、そこは臨機応変にやってくれればいいし、それで牧之原をモデルにして、榛原相良でもやっていくような形でもいいのではないか。教室も自由に年度によって変えることもできるので。そういうことであればそれをうまく文面に乗せてもらって、一番は子どもたちのことを考えて、あとは先生たちがスムーズにやれるようにしてもらえたらいいと思う。

- 永田委員 アンケートの回答数が44件は少ない。地域の人たちは不安や疑問に思っていることがある。それを吸収しておかないと、あとになってから困るのではと不安に思った。
- 学校再編推進室主幹 方針を作る段階でもう一度聞く、保護者だけでもいいのでアンケートをするなど、アクションした方がいいという話だと思うが、どうしたいかはあるか？
- 永田委員 話を戻すのは良くないが、数点不安や疑問に思っていることが書かれていたので、そこは解消して、みんなが良かったと言える学校になってほしい。少しでも疑問や意見を消化する努力をしていかないといけない。
- 山本委員 最低限、保育園や回覧、まなポケなどで、意見があれば連絡くださいということをやくらいか。興味ない人は全く見ないので。何かあったときに、これだけお知らせして意見を受け付けましたというのがあれば。
- 学校再編推進室主幹 地域の人にはどうアクションすればいいか。全戸配布するか。
- 山本委員 これから祭典もあるので、組長会で区のラインがあるところも多いので、それを使って共有してもらうのが良いのでは。動画にまとめなくても文書でいい。組の回覧で回してもらうなどすればいい。回覧するのは、意見書ではなく方針の方がいいと思う。方針の案で回覧すれば意見は反映できるが、時間がないと思う。
- 学校再編推進室主幹 パブリックコメントだと30日間の決まりがある。アンケートなら縛りはないのでできるが、早く詰めないといけないので、また皆さんに集まっていただく必要がある。
- 橋本教育長 CS だよりで意見書を提出したことを出すか。
- 学校再編推進室主幹 区会の日程の関係で、今月の回覧は間に合わない。次回は8月になるが、それだとあまり意味がない。
- 橋本教育長 であれば方針の方で出す形でいい。

閉会（閉会時刻 午前11時13分）